

ここまでの画像検査の結果を参考に、確定診断(生検による病巣からの組織・細胞の採取)のために気管支鏡による肺生検を行います。

【気管支鏡検査】 中枢気道の観察および肺癌の確定診断に不可欠な検査です。気管支鏡を使用した確定診断法として中枢気道病変に対する直視下生検やX線透視下での末梢肺病変に対する径気管支鏡的肺生検や擦過細胞診などがあります。現在頻用されているのは超音波気管支鏡で超音波プローブを気管支内腔に挿入し、気管支壁および壁外の断層像をリアルタイムに描出する診断技術です。EBUS-GS(ガイドシース)による生検診断、EBUS-TBNA(ガイド下針生検)による縦隔リンパ節診断などに使用され、組織や細胞を採取して確定診断を得ることができます。

【診断の確定】 最後に、これまでの検査結果を総合的に判断して、肺がん(悪性腫瘍)なのか否かの判定をします。肺がんであった場合は腫瘍の進行度(病期)の決定を行います。国や施設の違いを超えて共通の基準の元に、がんの診断・治療を行うことを目的としており、世界各国で使用されている基準で診断します。肺癌の治療方針は、臨床病期と、病理診断の結果が非小細胞癌か小細胞癌かの腫瘍学的因子と、パフォーマンス・ステータスなどの患者さんの身体的因子によって決定されます。

写真3 気管支鏡検査



●気管支鏡による生検(組織・細胞採取)で診断を確定します。

 東京医科大学八王子医療センター
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HACHIOJI MEDICAL CENTER

みどりの丘

緑の『街』が見つめる医療

第 279 号 2024 年 10 月 1 日発行

